

村上 三良（むらかみ・さんりょう）

1、プロフィール

高浜虚子・高野素十に師事。虚子の主張する花鳥諷詠・客観写生の作句姿勢を一貫して実践。俳誌「花林檎」を創刊主宰。

<生没>

1911(明治 44)年1月1日 ~ 2004(平成 16)年9月4日

<代表作>

句集『花林檎』

句文集『雪籠』

句集『月冷え』

句集『秋茄子』

句集『後の月』

<青森との関わり>

青森市に生まれ、終戦後同市に医院を開設。俳誌「十和田」「花林檎」青森句会を指導。青森県俳句懇話会顧問。

2、作家解説

明治 44 年青森市に生まれる。本名は愛一、三良の号は祖父の堂名による。旧制青森中学・高知高校と進み、青森中学の同期には津島修治(太宰治)がいる。俳誌「十和田」の主宰であった増田手古奈と従兄弟の間柄であるが、俳句を学び始めたのは昭和 10 年頃新潟医科大学在学中で、同大学教授の中田みづほ・高野素十・濱口今夜(いずれもホトトギス同人)の指導を受けた。

大学卒業後の軍医従軍により作句活動の一時中断があったが、終戦後医院開業とともに作句を再び開始し、俳誌「十和田」の編集発行を支援(28 年6月から32 年 11 月まで発行所担当、29 年8月から三良選「花林檎集」欄を設ける)。23 年頃高浜虚子息女の高木晴子氏が夫の餅花氏(日本銀行青森支店長)と青森市

に赴任した縁により、直接高浜虚子の指導を受けるに至る。30年に俳誌「ホトギス」同人となり、一貫して花鳥諷詠・客観写生の作句姿勢を実践。俳誌「十和田」主宰増田手古奈の逝去の後に同誌友等の強い要請を受け、平成5年9月に俳誌「花林檎」を創刊主宰。

昭和61年、青森県褒賞、平成4年地域功労賞文部大臣表彰を受ける。日本伝統俳句協会顧問、同協会東北支部長も務めた。

3、資料紹介

○句集『花林檎』

図書

1960(昭和35)年11月

194mm×133mm

第一句集で、妻京子との共著。昭和34年までの作品から三良520余句、京子200余句を掲載。いずれも高浜虚子・高野素十・星野立子等の選を経た作品。『花林檎』の名称は、増田手古奈を高浜虚子が訪ねた時に美しかった花林檎にちなみ、また虚子を偲んでつけた。